

NIFAアクションプラン2018→2022	全体	頁中の	頁
1. 現状の概要と今後の方向性			技術委員会
<p>[2018年における現状]</p> <p>前回アクションプランより、2014年度長崎国体では少年男子がベスト4、2016年度岩手国体では女子の優勝を含むサッカー競技での総合優勝を勝ち取り着実な成果をあげてきた。ただし、前回のアクションプランで示した課題については引き続き取り組みが必要と思われるので以下に示す。</p> <p>○プレッシャー下での正確な技術・・・ゲームで激しいプレッシャーがかかった状態ではまだまだ精度の高い技術が発揮出来ない。狭いスペースでの正確なファーストタッチやパスの質（強さ、球種、角度やタイミング）などのレベルアップが求められる。</p> <p>○速く正確な判断・・・ゲーム状況の中でこういったプレーを選択するかといった判断の速さやゲーム全体を読む力が足りない。</p> <p>○オフザボールの質・・・ボールを持っているプレーヤーに対してどのように関わるのか。また、ボールを持っているプレーヤーと自分だけでなく、ボールを持っていないプレーヤー同士の関係を意識して動くことがまだまだ出来ていない。</p> <p>○ボールを奪う力・・・常に相手ボール保持者に対してハイプレッシャーをかけ続け、1対1でボールを奪いきる守備力とグループとしてコレクティブに連動しボールを奪うことがゲームの中で継続して出来ない。</p> <p>○コミュニケーション能力・・・ゲーム中に指示をしたり、お互いの意志の疎通を言葉で簡潔にはかることが極端に苦手である。</p> <p>現行の目標である2012年目標の対しての現状や、長中期目標に対しての現状の概要、今後の大きな方向性などについて書いて下さい</p>			

NIFAアクションプラン2018→2022	全体	頁中の	頁
2. 中期目標（2030年）			技術委員会
<p>[トレセン活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>種別や地区を越えたトレセンの連携がなされ、県全体として一貫性を持った選手育成がなされている。</li> <li>各年代の代表、エリートプログラム（U14以下）、ナショナルトレセンに、毎年合計50人以上をコンスタントに輩出する。</li> <li>JFA認定トレセンの完全実施</li> </ol> <p>[指導者養成]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>JFA公認指導者ライセンス取得者をC級520人以上、D級850人以上を目指す。</li> <li>県主催のリフレッシュ研修会を計画的に実施する。</li> <li>NiFAフットボールカンファレンスを2年に1度開催し、県の現状、課題と今後の指針について全指導者で共有する。</li> </ol> <p>[国体強化]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>成年男子では常に本国体に出場し、ベスト8以上を目指す。</li> <li>少年男子では常に本国体に出場し、ベスト8以上を目指す。</li> <li>成年女子では常に本国体に出場し、ベスト4以上を目指す。</li> <li>少年女子では常に本国体に出場し、ベスト4以上を目指す。</li> </ol>			

NIFAアクションプラン2018→2022	全体	頁中の	頁
3. 長期目標（2050年）			技術委員会
<p>[トレセン活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>種別や地区を越えたトレセンの連携がなされ、県全体として一貫性を持った選手育成がなされている。</li> <li>各年代の代表候補選手をコンスタントに輩出する。</li> </ol> <p>[指導者養成]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>JFA公認指導者ライセンス取得者をC級1200人以上、D級1500人以上を目指す。全登録チームに公認C級以上のライセンスを持つ指導者がいる。</li> <li>県主催のリフレッシュ研修会を計画的に実施する。</li> <li>NiFAフットボールカンファレンスを2年に1度開催し、県の現状、課題と今後の指針について全指導者で共有する。</li> </ol> <p>[国体強化]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>成年男子では常に本国体に出場し、優勝を目指す。</li> <li>少年男子では常に本国体に出場し、優勝を目指す。</li> <li>成年女子では常に本国体に出場し、優勝を目指す。</li> <li>少年女子では常に本国体に出場し、優勝を目指す。</li> </ol>			

NIFAアクションプラン2018→2022					全体 頁中の 頁		
4. 現状分析					技術委員会		
No.	事項	2022年具体的目標	2018年における現状	達成度	目標達成へ向けての課題	改善の方策	
1	トレセン活動	1 種別、地区を越えた連携と一貫指導体制の確立と質の向上	・地区トレセンの組織はできていない ・年度初めの合同トレセンスタッフ研修会で指導内容を共有している ・リーグ戦の導入で県レベルでのトレセン実施が日進月歩になって来ている ・2018年度はU12でナショナルトレ9名、エリート7名 U14で代表1名、エリート6名、ナショナルトレ15名 女子で代表2名、候補4名、エリート5名 ナショナルトレ7名	60%	・指導者を含むソフト面の充実  ・日程の確保と地区レベルのトレセン活動で補う	・地区ダイレクターのリーダーシップ ・県主催トレセンスタッフ研修会等の開催 ・その他の伝達講習会を増やす ・トレセンマッチデー等、カレンダーの整理 カレンダー会議の実施 ・更に地区から選手を吸い上げる情報網を整理する ・種別が変わった際の引き継ぎ、選手のリレーを種別を越えて共有する	
		2 カテゴリー代表、エリート、ナショナルトレセンに毎年50名以上選出される	・ほぼ認定完了済みだが、1部地区、1部ブロックで未認定あり	90%	・ライセンス保有スタッフの確保が一番の課題	・地区ダイレクターを中心に計画的に地区内指導者へのライセンス取得を進める。 ・申請事務作業を円滑に行う。	
		3 JFA認定トレセン完全実施	・C級は2018年現在で470名 D級は2018年現在で776名 ・ポイント対象の研修会は増えている フットサルライセンスへの対応が必要 ・2018年度第4回を開催	86%	・日程など開設方法の工夫	・受講者が受けやすい日程、スケジュールをさらに工夫し 受講しやすい条件を整備する	
	2 指導者養成	1 公認指導者ライセンス数 C級ライセンス保有者520人以上 D級ライセンス保有者850人以上	・ポイント対象の研修会は増えている フットサルライセンスへの対応が必要 ・2018年度第4回を開催	84%	・FAチーフインストラクターの日程調整と JFAインストラクターの活用	・フットサル委員会との連携、情報共有 ・フットサル担当を技術委員会内に置く	
		2 リフレッシュ研修会の実施	・2018年度第4回を開催	100%	・日程・会場の確保。現状の把握とテーマ設定	・各カテゴリーの大会やトレセンを分析し、県としての課題を明確にする。そのためにテクニカルスタディグループを編成する。	
		3 2年おきに県カンファレンスを開催する	・2018年は出場権を逃す 2015年以降ベスト4が1回 過去10年以上続けて本県体出場しているが 2015年以降ベスト8以上は2回 ・2016年度優勝。 2018年度は出場権を逃す	10%	・社会人と大学の連携	・ジャパンサッカーカレッジと県内大学の連携を強化し、他県 大学等で活躍する県出身選手も効果的に活用していく。 ・4種から2種の選手情報共有を強化する ・所属チームとの調整	
	3 国体強化	1 成年男子で常に本県体出場、ベスト8以上	・2015年以降ベスト4が1回 過去10年以上続けて本県体出場しているが 2015年以降ベスト8以上は2回 ・2016年度優勝。 2018年度は出場権を逃す	30%	・種別間でのリレーにより人材の発掘 ・活動期間の確保	・それぞれが所属する連盟、リーグでターゲットとする大会 が違いため、国体強化に対する共通認識を深める ・男子を指導している指導者を戦略的、積極的に女子の指導に 関わらせる。 ・現状を継続しつつ、2種との連携、情報共有	
		2 少年男子で常に本県体出場、ベスト8以上	・2022年度より新設	50%	・アルビレディース、県内大学との連携  ・指導者の確保		
		3 成年女子で常に本県体出場、ベスト4以上			・U12～15までの女子トレセン活動		
		4 少年女子で常に本県体出場、ベスト4以上					
	事項番号	事項の見出し	事項の中での具体的な目標 明確に、可能であれば数値で	2015年目標に向けての2012年での現状 達成度の%表記を右欄へ記入→	%表記	目標達成のために解決すべき課題	課題を解決、改善のための方策の概要

※ 作成横長の本表は、印刷時には2ページ見開きになる予定です

NIFAアクションプラン2018→2022		全体 頁中の 頁			
5. 具体的アクション					技術委員会
No.	誰が	いつ・いつまでに	どこで	何を	どのように
1	【トレセン活動】 ①一貫指導体制における質の向上 技術委員長 ユースダイレクター 地区ダイレクター	2019年度中に	・各地区	・地区におけるトレセンを中心とした一貫指導システム ・指導内容の均一化と質の向上	・地区ごとの予算を配分 ・地区ダイレクターを中心に一貫指導システムを地区の実情に合わせ構築 ・トレセンスタッフ研修会を計画しベクトル合わせを行う ・地区ごとのトレセン指導者研修会を実施 ・JFAインストラクターを活用、巡回をしてもらう
	②ナショナルトレに毎年15人以上 技術委員長 ユースダイレクター 種別技術委員長	毎年	・各種別県トレセン ・技術委員会	・選手の発掘、育成 ・種別同士の交流、情報交換	・各地区から情報を取り上げ、将来性のある選手を県トレセンに送る ・計画的に地区トレセンを巡回する ・JFAインストラクターの活用 ・種別を越えた情報交換会などをおこなう
	③認定トレセン完全実施 技術委員長 ユースダイレクター 地区ダイレクター		・各地区	・認定に向けた申請作業 ・認定に必要なライセンス保有コーチの養成	・地区ダイレクターを中心に申請作業をすすめる ・各種ライセンス講習会への推薦を計画的にすすめる
2	【指導者養成】 ①公認ライセンス数 FAインストラクター 技術委員会の指導者養成担当	毎年	・技術委員会の指導者養成担当	・開催する講習会数を各2コース C級ライセンス講習会 D級ライセンス講習会	・カレンダーで年度当初に計画する ・実施できるインストラクターを増やし、年度初めに担当者を決定 ・受講しやすい講座の設定を行う
	②リフレッシュ研修会の開催 チーフインストラクター 各種別技術委員長 技術委員会の指導者養成担当	毎年	・技術委員会の指導者養成担当 ・各種別技術委員会	・種別を限定しないリフレッシュ研修会 20ポイントの研修を1回 10ポイントの研修を2回 5ポイントの研修を2回	・チーフインストラクターを中心に年度初めに計画 ・各種別技術委員会で計画する ・年度初めに担当者を決定 ・JFAインストラクターの活用
	③2年おきに県カンファレンスを実施 技術委員長 ユースダイレクター ほか技術委員	開催前年	・技術委員会	・毎年のトレセン活動の視察と分析を行う	・各種別の活動、国体等における結果を検証し、県としての課題を明確にしていく ・各種別の技術委員長を中心に視察活動
3	【国体強化】 ①成年男子でベスト8以上 国体GM	毎年	・技術委員会、1種委員会	・ジャパンサッカーカレッジ、大学等の強化に関する連携について	・社会人、大学の担当者や技術委員会で連携強化策についての共通理解を図り、活動に反映させる。
	②少年男子でベスト8以上 国体GM 技術委員会 ユースダイレクター	毎年	・技術委員会、2種委員会	・カレンダーの作成 ・所属チームとの折衝	・おもに2種関連大会とのバランスをはかる ・選手の確実な派遣について、技術委員会として関わる
	③成年女子でベスト4以上 国体GM 女子委員会	毎年	・技術委員会、女子委員会	・女子育成のシステム構築 ・アルビレックス、県内大学の連携について	・女子委員会と連携し指導者を含め女子のトレセン活動活性化を図る ・技術と女子でイニシアティブをとりアルビレックス、大学の連携強化
	④少年女子でベスト4以上 国体GM 女子委員会 ユースダイレクター	毎年	・技術委員会、女子委員会	・U12～15トレセン活動	・現状を維持しつつもU16での国体を意識した強化策の検討、実施

↑現状分析での事項No.に対応。複数の事項にまたがって、一つの事業で対応することも可能です

5. 具体的アクション

委員会  
連盟  
地区協会

No.	誰が	いつ・いつまでに	どこで	何を	どのように
1	<b>【トレセン活動】</b> ①一貫指導体制の確立 技術委員長 ユースダイレクター 地区ダイレクター トレセン委員長 技術委員会のトレセン事業部	2013年度中に	・技術委員会のトレセン事業部	・地区におけるトレセンを中心とした一貫指導システム  ・指導のベクトルを県として共有する	・地区ごとの予算を配分 ・地区ダイレクターを中心に一貫指導システムを地区の実情に合わせ構築 ・トレセンスタッフ研修会を計画しベクトル合わせを行う ・技術委員長、ユースダイレクター、FAインストラクターで担当を決め計画的に地区を巡回、指導 ・JFAインストラクターの活用
	②ナショトレに毎年15人以上 技術委員長 ユースダイレクター 地区ダイレクター トレセン委員長 技術委員会のトレセン事業部	2013年度中に	・技術委員会のトレセン事業部	・選手の発掘、育成	・各地区から情報を吸い上げ、楚々質のある選手を県トレセンに送る ・計画的に地区トレ等を巡回する ・JFAインストラクターの活用
2	<b>【指導者養成】</b> ①公認ライセンス数 FAインストラクター 技術委員会の指導者養成事業部	2015年度までに	・技術委員会の指導者養成事業部	・開催する講習会数を各2コース C級ライセンス講習会 D級ライセンス講習会	・カレンダーで年度当初に計画する ・実働できるインストラクターを増やし、年度初めに担当者を決定
	②リフレッシュ研修会の開催 FAインストラクター 各種別技術委員長 技術委員会の指導者養成事業部	2015年度までに	・技術委員会の指導者養成事業部	・種別を限定しないリフレッシュ研修会 20ポイントの研修を1回 10ポイントの研修を2回 5ポイントの研修を2回	・チーフインストラクターを中心に年度初めに計画 ・年度初めに担当者を決定 ・JFAインストラクターの活用
	③2年おきに県カンファレンスを実施 チーフインストラクター 技術委員長 ユースダイレクター トレセン委員長 各種別技術委員長 技術委員会のカンファレンス事業部	2013年度に	・技術委員会のカンファレンス事業部	・2013年第3回カンファレンスの内容、テーマ	・第2回以降の各種別の活動、国体等における結果を検証し、県としての課題を明確にしていく ・カンファレンス事業部を中心としたワーキンググループで活動
3	<b>【国体強化】</b> ①成年男子でベスト8以上 技術委員会の国体強化事業部	2015年度までに	・技術委員会の国体強化事業部	・ジャパンサッカーカレッジ、大学等の強化に関する連携について	・社会人、大学の担当者と技術委員会で連携強化策についての共通理解を図り、活動に反映させる。
	②少年男子でベスト8以上 技術委員会の国体強化事業部 技術委員会のトレセン事業部	2015年度までに	・技術委員会の国体強化事業部 ・技術委員会のトレセン事業部	・地区におけるトレセンを中心とした一貫指導システム ・指導のベクトルを県として共有する ・選手の発掘、育成	・地区ダイレクターを中心に一貫指導システムを地区の実情に合わせ構築 ・トレセンスタッフ研修会を計画しベクトル合わせを行う ・各地区から情報を吸い上げ、楚々質のある選手を県トレセンに送る
	③女子でベスト4以上 技術委員会の国体強化事業部 女子委員会 技術委員長 トレセン委員長 ユースダイレクター 地区ダイレクター	2015年度までに	・技術委員会の国体強化事業部	・女子育成のシステム構築 ・トレセンにおいて男子との連携作り ・アルビレックス、ジャパンサッカーカレッジ、大学の連携について	・女子委員会と連携し指導者を含め女子のトレセン活動活性化を図る ・地区トレセンにおける女子の関わりを地区で明確にし強化に反映させる ・技術と女子でイニシアティブをとりアルビレックス、ジャパンサッカーカレッジ、大学の3者の連携強化

↑現状分析での事項No.に対応。複数の事項にまたがって、一つの事業で対応することも可能です

4. 現状分析 地区協会  
委員会  
連盟

No.	事項	2015年具体的目標	2012年における現状	達成度	目標達成へ向けての課題	改善の方策
1	トレセン活動	1 種別、地区を越えた連携と一貫指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区における縦の連携が整備されていない</li> <li>・各ブロックトレセンで指導内容が一括化されていない</li> <li>・リーグ戦の導入で県レベルでのトレセン実施が日程的に難しくなっている</li> </ul>	50%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の組織整備</li> <li>・指導者のベクトル合わせ</li> <li>・日程の確保と地区レベルのトレセン活動で補う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区ダイレクター制度を整備し、地区独自の活動推進</li> <li>・県主催トレセンスタッフ研修会等の開催</li> <li>・各ブロックトレセンを計画的に巡回、現状把握と指導を行う</li> <li>・トレセンマッチデー等、カレンダーの整理 カレンダー会議の実施</li> <li>・更に地区から選手を吸い上げる情報網を整理する ダイレクターや県トレスタッフ、FAインストラクターの定期的な地区視察、巡回活動を行う。</li> </ul>
		2 ナショナルトレセンに毎年15人以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年度はU12で12名、U13・14で9名参加（前期7名、後期9名）</li> </ul>	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を継続</li> </ul>	
2	指導者養成	1 公認指導者ライセンス数 C級ライセンス保有者500人以上 D級ライセンス保有者800人以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C級は2012年2月現在で432名</li> <li>・D級は2012年2月現在で670名</li> </ul>	86%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開設コース増</li> <li>・開設コース増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FAインストラクター数を増やし、実働出来るインストラクターを積極的に登用していく。</li> <li>・FAインストラクター数を増やし、実働出来るインストラクターを積極的に登用していく。</li> <li>・各カテゴリーの大会やトレセンを分析し、県としての課題を明確にする。そのためにテクニカルスタディグループを編成する。</li> <li>・ジャパンサッカーカレッジと県内大学の連携を強化し、他県大学等で活躍する県出身選手も効果的に活用していく。</li> <li>・県トレセンを主体としたエリート養成システムの確立と指導者の育成</li> <li>・それぞれが所属する連盟、リーグでターゲットとする大会が違うため、国体強化に対する共通認識を深める</li> <li>・中体連、高体連への働きかけ</li> <li>・男子を指導している指導者を戦略的、積極的に女子の指導に関わらせる。</li> <li>・大会終了後は現場スタッフを交え、報告会と検討会を行う。</li> </ul>
		2 リフレッシュ研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間で10ポイントの研修が2回、5ポイントの研修が2回</li> </ul>	84%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FAインストラクターの確保とJFAインストラクターの活用</li> </ul>	
		3 2年おきに県カンファレンスを開催する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回が2009年、第2回が2011年。第3回に向けて現在準備している</li> </ul>	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程・会場の確保。現状の把握とテーマ設定</li> </ul>	
3	国体強化	1 成年男子で常に本国体出場、ベスト8以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年は出場権を逃す</li> </ul>	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人と大学の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパンサッカーカレッジと県内大学の連携を強化し、他県大学等で活躍する県出身選手も効果的に活用していく。</li> <li>・県トレセンを主体としたエリート養成システムの確立と指導者の育成</li> <li>・それぞれが所属する連盟、リーグでターゲットとする大会が違うため、国体強化に対する共通認識を深める</li> <li>・中体連、高体連への働きかけ</li> <li>・男子を指導している指導者を戦略的、積極的に女子の指導に関わらせる。</li> <li>・大会終了後は現場スタッフを交え、報告会と検討会を行う。</li> </ul>
		2 少年男子で常に本国体出場、ベスト8以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年を含め5年続けて本国体出場しているが、1回戦突破が1回だけ。</li> </ul>	20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育成のリレーの中でいかに人材を発掘し育てチームとして仕上げていくか</li> </ul>	
		3 女子で常に本国体出場、ベスト4以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年連続本国体には出場。2011、2012と2年続けてベスト8</li> </ul>	50%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルビレディース、ジャパンサッカーカレッジ、県内大学の連携</li> <li>・中学校年代以降の女子選手の受け皿（チーム）</li> <li>・指導者の確保</li> </ul>	
事項番号	事項の見出し	事項の中での具体的な目標 明確に、可能であれば数値で	2015年目標に向けての2012年での現状 達成度の%表記を右欄へ記入→	%表記	目標達成のために解決すべき課題	課題を解決、改善のための方策の概要

※ 作成横長の本表は、印刷時には2ページ見開きになる予定です